＊＊2014年４月改訂
＊2011年11月改訂

日本標準商品分類番号　87959

動物用医薬品

イヌ老年性初発白内障進行防止剤

# ライトクリーン®

LIGHT CLEAN®

ピレノキシン点眼剤

®：登録商標

## 【組　　成】

本剤は、１包（87㎎）中ピレノキシン0.75㎎を含有するだいだい黄色の顆粒である。また、添加物としてタウリン、ホウ砂及びホウ酸を含有しており、溶解液15mLを添付している。
溶解液は無色澄明の液で、添加物としてホウ酸、イプシロン-アミノカプロン酸、パラオキシ安息香酸メチル、クロロブタノール、塩化カリウムを含有する。溶解後の点眼液は、黄色澄明の液で、１mL中ピレノキシン0.05㎎を含有する。

## 【効能・効果】

イヌ老年性初発白内障

## 【用法・用量】

顆粒を溶解液に用時溶解し、１回１～２滴、１日３～５回点眼する。
※顆粒の溶かし方については裏面をご参照ください。

## 【使用上の注意】

［一般的注意］
⑴本剤は効能・効果において定められた目的にのみ使用すること。
⑵本剤は定められた用法・用量を厳守すること。
⑶本剤は獣医師の指導の下で使用すること。

［犬に対する注意］
1. 副作用
⑴本剤の投与により、ときに眼瞼炎、結膜充血、流涙を起こすことがある。
⑵副作用が認められた場合には、速やかに獣医師の診察を受けること。
2. 適用上の注意
⑴点眼用にのみ使用すること。
⑵点眼のとき、容器の先端が直接目に触れないように注意すること。

［取扱い上の注意］
⑴本剤は外箱に表示の使用期限内に使用すること。ただし、溶解後は冷所に遮光して保存し、３週間以内に使用すること。
⑵本剤は金属イオンの混入によって色調が変化するので、注意すること。なお、色調が変化したものは使用しないこと。

［保管上の注意］
⑴小児の手の届かないところに保管すること。
⑵本剤は室温で保存すること。ただし、溶解後は冷所に遮光して保存すること。
⑶誤用を避け、品質を保持するため、他の容器に入れかえないこと。

## 【薬効薬理】

キノイド学説によると、白内障の成因は水晶体の水溶性蛋白が、有核アミノ酸（トリプトファン、チロジン等）の代謝異常で生じるキノイド物質によって変性し不溶性化するためといわれているが、ピレノキシンはキノイド物質のこの作用を競合的に阻害して、水晶体の透明性を維持させることにより白内障の進行を抑制する（モルモット、*in vitro*）[1~3]。

## 【臨床成績】

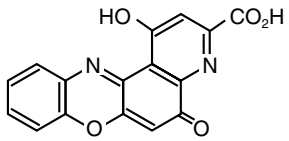
1. 臨床効果
イヌ老年性初発白内障73例についての臨床試験では、65例（有効率89.0%）に臨床効果が認められている。なお、投与期間は平均233（133～371）日であった。
2. 副作用
承認時及び使用成績調査での総症例429例中５例（1.17%）に副作用が認められた。
主な副作用は、結膜充血４件（0.93%）、流涙１件（0.23%）、眼瞼充血１件（0.23%）であった（再審査終了時）。

## 【安 全 性】

雄性ビーグル犬の右眼に0.01%ピレノキシン点眼剤（本剤溶解液に２倍量の顆粒を溶解したもの）を１回２滴、１日10回、３日間点眼し、左眼は無処置とした試験では、一般状態及び体重に異常は認められず、眼粘膜についても対照眼と差はなく、異常は認められていない。

## 【性　　状】

〈製剤の性状〉
本剤は、無菌に製しただいだい黄色の分包顆粒と無色澄明の溶解液からなる。添付の溶解液に溶解後の点眼液は、黄色澄明の液で、無菌製剤である。
pH：4.5～6.5（添付の溶解液に溶解後）
〈有効成分の理化学的知見〉
一般名：ピレノキシン（Pirenoxine）〔JAN〕
化学名：1-Hydroxy-5-oxo-5*H*-pyrido[3, 2-*α*]phenoxazine-3-carboxylic acid
構造式：




分子式：$C_{16}H_8N_2O_5$
分子量：308.25
性　状：ピレノキシンは、黄褐色の粉末で、においはなく、味はわずかに苦い。
ジメチルスルホキシドに極めて溶けにくく、水、アセトニトリル、エタノール（95）、テトラヒドロフラン又はジエチルエーテルにほとんど溶けない。
融点：約250℃（分解）

## 【包　　装】*

（点眼液用顆粒87mg・溶解液15mL）×1

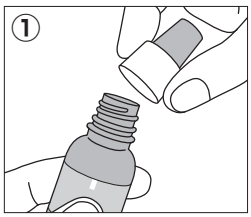
## 【主要文献】*


1)荻野周三：日本眼科学会雑誌, **59**, 666, 1955.
2)荻野周三：日本医事新報, 第1732号, 13, 1957.
3)荻野周三：臨床眼科, **11**, 272, 1957.


## 【文献請求先】

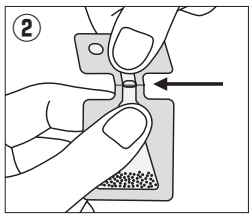

〈文献請求先・製品情報お問合せ先〉
千寿製薬株式会社　カスタマーサポート室
〒541-0046　大阪市中央区平野町二丁目5番8号
TEL 0120-06-9618　FAX 06-6201-0577
受付時間　9：00～17：30（土、日、祝日を除く）


## 顆粒の溶かし方

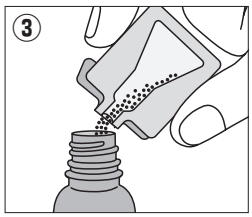


溶解液容器の白色の大キャップをとりはずす。
その際、瓶口部に溶解液の膜が張っている場合は、膜が無くなるまで、瓶の胴部を軽く押える。

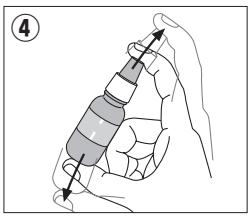
（顆粒パックの開封口が膜に触れると、顆粒が湿って出にくくなりますので、ご注意ください。）



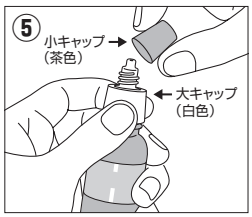
顆粒を大きい方の袋に集め、矢印付近の切り込み線に指をかけないようにして、図のように折る。



顆粒に手を触れないよう注意し、パックから直接溶解液に入れる。



白色の大キャップをかたくしめ、よく振って顆粒を溶解する。

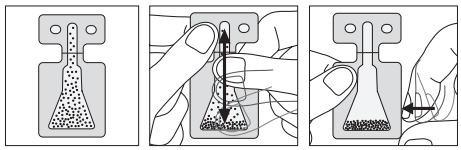



点眼する時は、白色の大キャップはそのままにして茶色の小キャップのみをはずし、容器の先端が目に触れないように注意して点眼する。

（誤って白色の大キャップをはずしますと、液がこぼれますので、ご注意ください。）

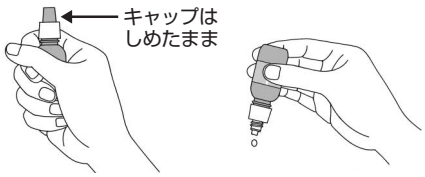
### このときパックに顆粒が付着していないか確認してください。

運搬時の振動等により、パックに静電気が生じ、顆粒がパックの内面に付着して湿っているように見えることがあります。
このような時は、図のようにパックを指で擦り静電気を除去した後、パックの横を指で軽く叩くと付着が無くなります。



### 点眼される際のお願い

冷所に保存していた点眼液を取り出した後すぐに点眼すると（特に残りの薬液が少ない場合）、容器の中の冷たい空気が手で温められて膨張し、薬液が連続して落ちる場合があります。
点眼する前にしばらく容器を手で温めてから点眼すると、1滴ずつ点眼できます。




*（毒性に関する項目の削除）


製造販売元　千寿製薬株式会社　大阪市中央区平野町二丁目5番8号
** 販売　DSファーマアニマルヘルス株式会社　大阪市中央区本町2-5-7